

牛どろぼう

照屋 寛良 (1908・M41) 字座喜味 (01:27)

ちのう すぐ ぬすどろ ちねー うしぬす
知能ぬ優りと一ぬ盗人ぬよ、あぬ家庭ぬ牛盗みわ
るやるんりち。やしが盗み一ね一な一、盗人ぬ名あ立
ちゆくとうんち、知恵んじゃち身体いっペー 塩 塗て
い、坊主ぬ装いし行ぢよ一るふ一じや。

ぼーじ ころもち わん まー ちょー ぼーじ
坊主ぬ 衣着ち、「私ね一何処から 来 る坊主やしが、
にった ちねー でーじ さいなん あ さいなん
汝達あ家庭んかい大事な災 難ぬ有くとう。うぬ災 難り
一しえ一、にった うし わん 私ね一ちゃーる いんぐわ うん
そ一たら一、にった うし じっさい わ
汝達あ牛え実 際ぬとうくる、くれ一私あ
ちよーでー い
兄 弟やんどー」り言ちえ一るふ一じ。

「は一、私達あ牛ぬん汝あ 兄 弟んちんあんな一」ん
ちよ一るふ一じやしが。「くれ一やんどー、うぬ証 拠ぬ
あらかわ どうー まーすぬ
あんしえ一 現 さびらな」んち、身体いっペー 塩 塗て
い行ぢよ一んりくとう。其処んかい行ち一にと一てい
ちぶる ひさざち
頭 から足先までい。

「いった一牛んじゃち呉みそ一れ一。にった うし
『アイエーヤ一、会ちやたるや一 兄 弟』んでいち、私
で一な一、じこ一舐み一るむんやれ一、くれ一な一はっ
わ ちよーでー うし すがたあらかわ
きり私あ 兄 弟やくとう。くれ一牛んかい 姿 現 らち
よ一しが、うし にった一 なげ う にった
あ災 難遭たいくとう、私ね一くり添てい行きわるやく
さいなん あ わん そー い
とう」でいち。

はだか どうー な うんま
ああ 裸 なたい、身体いっペー舐み一るふ一じ、其処
や一くな うし
ぬ家族あな一びっくりし、「と一な一、くぬ牛え、な一
あんしえ一添てい行ぢとうらし、ありがとうやくとう
にへ一んでい言くとう、な一添てい行ぢとうらし」ん
ち、あんさ一い盗で一るふ一じ。

うし まーすす くと あらかわ
あんさ、牛え 塩 好きんりぬ事お、うりからん 現 り
うし でーじ まーすす
と一るば一。牛え大事な 塩 好きやんでいよ。

と一 うっさるやるむん。

【共通語訳】

ある所に悪知恵の働く盗人がいたそうだ。その盗人はある家の牛を狙っているが、盗人と呼ばれないように知恵を働かせた。どうしたかということ、体中に塩を塗りたくって、坊主の格好をしてその家に行ったわけさ。

そして、「私は〇〇から来た坊主だが、お宅には大変な災難がふりかかります。それは、貴方が飼っている牛のことで、その牛はどういう因果なのか、実は私の兄弟なんですよ」と言ったようだ。

「はあー？うちの牛が、貴方の兄弟だということがあるか」と言われたが、「いや、その牛は確かに私の兄弟です。それでは、その証拠をお見せしましょう」と盗人は言った。盗人は、その家へ行く前に、頭から爪先まで身体中に塩を塗りたくって行っているからね。

それで、「貴方の牛を出して下さい。牛が、『アイエーヤ一、やっと会えたね、兄弟よ』と、私を舐めてくるはずです。それが、私と牛が兄弟だという証拠です。これは私の兄弟が牛の姿を借りているだけで、長いことお宅に置いておくと災難に遭いますよ。だから、私は兄弟を連れて行かなくちゃいけません」と言って裸になった。

すると、出て来た牛は盗人の体中を舐めまわしたようだ。その家族はびっくりして、「そういうことなら、牛を連れて行ってくれ、ありがたいことだから連れて行ってくれ」と言い、盗人はまんまと牛を盗んだようだ。

だから、牛は塩が好物だってことは、それからも分かることさ。牛はとて塩が好きなんだってよ。

はい、これでおしまい。